

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1)生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメント毎に示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	前年同四半期比(%)
石油事業	揮発油・ナフサ(百万円)	90,144	52.6
	灯油・軽油(百万円)	127,321	50.4
	重油(百万円)	52,471	42.4
	その他(百万円)	24,094	48.6
小計(百万円)		294,032	49.2
石油開発事業(百万円)		3,897	77.9
合計(百万円)		297,929	49.5

- (注) 1 自家燃料は除いております。  
2 委託処理分を含み、受託処理分は除いております。  
3 上記の金額に消費税等は含まれておりません。  
4 上記の金額にセグメント間の生産高は含まれておりません。

#### (2)受注状況

当第2四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメント毎に示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
その他の事業	1,145	29.1	6,544	76.3

- (注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

#### (3)販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメント毎に示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	前年同四半期比(%)
石油事業	揮発油・ナフサ(百万円)	308,827	68.9
	灯油・軽油(百万円)	143,085	41.7
	重油(百万円)	69,070	41.4
	その他(百万円)	60,843	54.6
小計(百万円)		581,827	54.4
石油開発事業(百万円)		5,848	35.3
その他の事業(百万円)		5,735	44.1
合計(百万円)		593,410	54.0

- (注) 1 揮発油の金額には、揮発油税及び地方道路税が含まれております。  
2 上記の金額に消費税等は含まれておりません。  
3 上記の金額にセグメント間の販売高は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、決定した経営上の重要な契約等は以下のとおりであります。

平成21年9月29日開催の取締役会において、Hyundai Oilbank Co. Ltd.との間で、パラキシレン及びその他関連製品の製造・販売を目的とした合弁会社を設立するため、合弁事業契約を締結することを決議いたしました。

なお、合弁事業契約は平成21年10月1日に締結しており、その主な内容は、第5 経理の状況 1 四半期連結財務諸表（重要な後発事象）に記載しております。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日（平成21年11月10日）現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、製造業を中心に景気の持ち直し傾向が続いており、個人消費についても持ち直しの兆しが見え始めております。しかしながら、雇用情勢は未だ厳しい状況にあり、急速に円高が進行したことから、景気の持続的回復について不透明な状況となっております。こうした状況の中、石油製品の国内需要は依然として弱含みであり、特に産業用需要の減少や他のエネルギーへの燃料転換等により減少傾向をたどりました。

原油価格は、第2四半期期初は1バーレル70ドル台であったドバイ原油は、一時60ドルに下落しましたが、一進一退の推移を続け、期末は65ドル台となりました。

為替相場は、ドル金利低下等の影響により第2四半期期初の1ドル96円台から円高傾向で推移し期末には、1ドル90円台となりました。

このような経営環境の下、当社グループは平成20年度を初年度とする「第3次連結中期経営計画（平成20～22年度）」で掲げた石油精製販売事業の収益基盤の再強化、石油開発及び石油化学分野での成長戦略の加速を実現すべく、各施策を実行してまいりました。

こうした経営活動の結果、当第2四半期連結会計期間の連結経営成績は、売上高5,934億円（前年同期比△5,057億円）、営業利益52億円（前年同期比△159億円）、経常利益67億円（前年同期比△194億円）、四半期純損失5億円（前年同四半期は四半期純利益76億円）となりました。

なお、各セグメントの経営成績の状況は以下の通りです。

### 事業の種類別セグメントの業績

#### [石油事業]

石油製品事業につきましては、原油価格及び製品価格が前年同期と比べ下落し、販売数量は、景気低迷等の影響により内需燃料油を中心として減少しました。たな卸評価損は前年同期と比べ減少しましたが、製品市況悪化の影響等により減益となりました。

石油化学事業につきましては、市況悪化の影響及び景気低迷等による販売数量減少により減益となりました。

以上の結果、石油事業の経営成績は、売上高5,819億円（前年同期比△4,878億円）、営業損失28億円（前年同四半期は営業損失2億円）となりました。

#### [石油開発事業]

石油開発事業につきましては、前第2四半期連結会計期間と比べ原油価格が下落した影響等により、売上高154億円（前年同期比△142億円）、営業利益69億円（前年同期比△128億円）となりました。

#### [その他の事業]

その他の事業につきましては、石油関連施設の工事・保険代理業等を営んでおりますが、合理化・効率化に努めた結果、売上高239億円（前年同期比△11億円）、営業利益5億円（前年同期比+3億円）となりました。

## 所在地別セグメントの業績

### [日本]

日本につきましては、原油価格及び製品価格が前年同期と比べ下落したことや、需要の減少、製品市況悪化等の影響により、売上高5,876億円(前年同期比△4,788億円)、営業損失24億円(前年同四半期は営業損失2億円)となりました。

### [その他の地域]

その他の地域につきましては、原油価格の下落の影響などにより、売上高628億円(前年同期比△1,073億円)、営業利益65億円(前年同期比△135億円)となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は795億円となり、前四半期連結会計期間末の残高1,011億円に比し216億円(21.4%)の減少となっております。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

前第2四半期連結会計期間においては、原油価格の変動により売上債権・たな卸資産等が増加したことにより、資金は269億円減少しましたが、当第2連結会計期間においては、前年度の法人税等の還付等で資金が増加した一方、仕入債務の支払等の資金減少要因により、資金は241億円減少しました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

前第2連結会計期間においては、固定資産の取得による支出等により、資金が161億円減少しましたが、当第2四半期連結会計期間においても、同様の支出等で資金が258億円減少しました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

前第2連結会計期間においては、運転資金の借入等により資金が402億円増加しましたが、当第2四半期連結会計期間においては、設備資金の借入等により資金が286億円増加しました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、922百万円であります。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## (5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

### ①財政状態

当第2四半期末の連結財政状態と致しましては、総資産は1兆4,100億円となり、前連結会計年度末比304億円減少しております。これは、原油価格上昇によりたな卸資産は増加しましたが、税金の支払等による現金及び預金の減少や販売数量減少により売上債権が減少したためです。純資産は3,515億円と前連結会計年度末比41億円の増加となり、自己資本比率は23.5%となりました。

### ②キャッシュ・フロー

当第2四半期連結会計期間の連結キャッシュ・フローは、営業活動は前年度の法人税の還付等の資金増加要因の一方、仕入債務の支払等の資金減少要因により、241億円のマイナスとなりました。投資活動は固定資産の取得に伴う支出等により258億円のマイナスとなりました。財務活動は設備資金の借入等により286億円のプラスとなりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物残高は、前四半期連結会計期間末比216億円減少の795億円となりました。